

浦添市のあゆみ

1970年(昭和45年)	7月 浦添市、市制施行(村から市へ) 初代市長に又吉盛一氏就任	1985年(昭和60年)	3月 市人口8万人目達成 4月 浦添警察署開署 沖繩国際センター開所 市立図書館開館 5月 若草児童センター開所	2001年(平成13年)	2月 第10代市長に 儀間光男氏就任(～現在)
1971年(昭和46年)	8月 牧港保育所完成 12月 浦城小学校開校	1986年(昭和61年)	7月 車エビ養殖場完成	2002年(平成14年)	1月 宮城ヶ原児童センター・保育所完成 3月 いなんせ斎苑供用開始 4月 メディカルインフォメーションセンター開所 6月 排ガス高度処理・溶融施設完成 11月 浦添市美術館入場者100万人達成
1972年(昭和47年)	4月 仲西幼稚園開園 8月 内間保育所完成 9月 神森中学校開校	1987年(昭和62年)	4月 青少年センター開所 5月 市民体育館完成	2003年(平成15年)	1月 消防訓練塔完成 3月 港川共同調理場完成 4月 まちなど児童センター開所 12月 愛の声かけてだこの都市宣言
1973年(昭和48年)	4月 牧港小学校開校 浦添市福祉事務所設置	1988年(昭和63年)	3月 公共施設管理公社創立 4月 前田小学校開校 前田幼稚園開園 9月 中国福建省泉州市と友好都市締結 11月 教育研究所開所	2004年(平成16年)	1月 浦添市ハンドボール王国都市宣言 天皇・皇后両陛下浦添市役所ご来訪 国立劇場おきなわ開場 4月 浦城っ子児童センター開所 5月 浦添市民相撲場完成
1974年(昭和49年)	7月 市民会館完成 11月 市歌・市民音頭制定 12月 市木・市花木・市花制定	1989年(平成元年)	3月 印鑑登録オンライン開始 4月 内間児童センター開所 6月 市保健相談センター開所 8月 浦添城跡、国の史跡文化財指定	2005年(平成17年)	2月 市産業振興センター・結の街 供用開始 3月 玉城朝薫の墓、ようどれ修復完了 浦添グスク・ようどれ館開館 4月 市かりゆしセンター完成
1975年(昭和50年)	4月 浦城幼稚園開園	1990年(平成2年)	2月 浦添市美術館開館 11月 人口9万人目達成	2006年(平成18年)	3月 市地域包括センター設置 5月 市ファミリーサポートセンター開所 神森幼稚園新園舎・ 森の子児童センター複合施設完成 6月 市障がい児放課後児童健全施設 「ひまわり学童」落成 海ぶどう養殖施設完成 7月 市地域職業相談室開所 10月 「絹織物織子育成事業」(うらそえ織)開始 11月 養蚕事業開始
1976年(昭和51年)	4月 牧港幼稚園開園 9月 当山小学校開校 市基本構想策定	1991年(平成3年)	4月 浦添市在宅介護支援センター開所	2007年(平成19年)	4月 市てだこホール(大ホール)開館 5月 うらそえぐく児童センター開所
1977年(昭和52年)	4月 当山幼稚園開園 9月 内間小学校開校 11月 水道部庁舎完成	1992年(平成4年)	4月 浦西中学校開校 西原児童センター開所 5月 ごみ4分別収集開始	2008年(平成20年)	2月 「浦添市教育の日」制定 6月 市てだこホール(小ホール)開館 10月 てだこ市民大学開学 11月 市人口111万人目達成 子どものまちてだこ宣言
1978年(昭和53年)	4月 内間幼稚園開園 11月 第1回浦添てだこまつり開催	1993年(平成5年)	2月 第8代市長に宜保成幸氏就任 3月 消防庁舎完成 4月 福祉プラザオープン 8月 浦添市ハーモニーセンター完成 10月 浦添共同調理場完成	2009年(平成21年)	1月 那覇港浦添ふ頭地区 公有水面埋立事業着工 3月 沖繩都市モノレール延長浦添ルート決定 4月 県内初の全国瞬時警報システム 「J-ALERT」運用開始 市立図書館が文部科学大臣表彰
1979年(昭和54年)	4月 中央公民館開館 老人福祉センター開所	1994年(平成6年)	2月 第1回浦添市生涯学習まつり	2010年(平成22年)	1月 宮城っ子児童センター開所 消防緊急通信指令システム運用開始 前田ユブシが丘児童センター開所 7月 市制施行40周年
1980年(昭和55年)	3月 港川小学校開校 港川幼稚園開園 6月 市人口7万人達成 12月 第4代市長に 比嘉昇氏就任 (第4～7代市長)	1995年(平成7年)	1月 ゴミの有料化実施		
1981年(昭和56年)	11月 愛知県蒲郡市と 友好都市提携	1996年(平成8年)	3月 浦添市民球場完成 4月 経塚児童センター開所		
1982年(昭和57年)	4月 宮城小学校開校 沢崎小学校開校 12月 市民憲章制定	1997年(平成9年)	1月 第9代市長に宮城健一氏就任 7月 市庁舎行政棟完成		
1983年(昭和58年)	1月 市クリーンセンター完成 3月 宮城幼稚園開園	1998年(平成10年)	1月 市人口10万人目達成		
1984年(昭和59年)	2月 住居表示制開始 4月 港川中学校開校 6月 市社会福祉センター完成	1999年(平成11年)	2月 市庁舎議会議棟完成 4月 浦添市リサイクルプラザ「ドリーム21」稼働開始		
		2000年(平成12年)	2月 ヤクルトスワローズキャンペーン		

浦添市市制40周年記念特集

沖繩初の外交官 田場盛義の生涯

せいぎ

沖繩初の外交官が浦添の出身であることをご存知でしたか。故・田場盛義氏(1894～1937年)は、第二次世界大戦前の激動の時代に、その秀でた語学力をいかして中国で活躍した人物で、通州事件に巻き込まれ42歳の若さで殉職しました。本特集では、田場氏の波乱に満ちた生涯を紹介します。(※敬称は略して掲載しています。なお、本文は、「沖繩初の外交官田場盛義履歴書」又吉盛清編著2003年)を参考にしています。

学ブラーと呼ばれた少年

田場は、父盛政、母カメの三男として、浦添間切当山(現浦添市当山)に生まれました。首里系士族の出身で、生活は困窮していましたが、代々続く学問的素養のある家庭環境で育ちました。浦添尋常高等小学校(現浦添小学校)に通い、その後県立第一中学校(現首里高校)に入学します。

四年生の半ばまで浦添で過ごし、その後一家が恩納村に引っ越したため、首里に下宿して学業を続けました。第一中学校在学当時から田場の語学力は秀でていて、浦添から首里までの登下校中は、語学の教科書と辞書を片時も離さなかったと言われています。また、日曜日には庭先のカシユマルの木で涼を取りながら大声で英単語を練習していたので、当時、英語に耳慣

れない地元の人たちからは「田場の学ブラー(学問狂い)」と呼ばれていました。

沖繩初の外交官

第一中学校を卒業後は東京外国語学校(現東京外語大学)に入学し、第二学年在学中の22歳の時に、難関の外務書記生試験に合格しました。また、外務書記生在職中には外交科予備試験にも合格しています。

最初の任地は福州総領事館で、その後は香港、アモイ、外務大臣秘書官房室、漢口総領事館などで活躍しました。しかし、1925年に依願退職し、約8年間の本省外交官生活を終了します。

上海での生活

田場は、退職後の1926年に尚家の御屋敷(東京都)に勤めていた奥原貞子と結婚します。翌年には上海日本商務官事務所に嘱託として勤務します。

また、その得意な語学力と才能を認められて、中国南部を視察に来た松岡洋右(後の外務大臣)の秘書役となり、行動を共にしました。松岡はそれ以来、田場氏を高く評価し、何度が激励の手紙を寄せています。

満州国外交官時代

1933年、田場は建國閣もない満州国の外交部入りを松岡洋右に求められ、住み慣れた上海を後にします。

満州国外交部での任務は文化宣伝担当で、英文の新聞雑誌を編集して各国に送付し、

地域の誇りとして

本市の当山小公園には「田場盛義顕彰碑」があります。これは、子どもから大人まで多くの市民が田場の足跡に接することができるよう、当山地域の住民が中心となって今年の3月に建立したものです。



田場の生家跡近くに建てられた顕彰碑

無念の殉職

通州事件²は、抗日運動が高まりを見せる中で起こりました。田場は、公署内で応戦しましたが、体内に十数発の弾丸を受けて殉職します。

1937年7月29日午前3時過ぎのことでした。享年42歳。「正義派で力量ある外交官」という評価を受けながら、その豊かな才能を無念のうちに「不幸な時代」に沈められた田場の最後は悲劇的なものでした。

1937年8月、亡骸は満州国葬の後、田場の母が住む那覇市に移され、県を挙げて出迎えられます。

25日には那覇市葬が盛大に開催され、約千名の参列者が田場の死を惜しみました。

通州事件(※2)

1937年7月29日、盧溝橋事件で日中両軍が衝突して間もない頃に起きた事件。冀東防共自治政府の所在地であった通州で、冀東政権保安隊約三千名が反乱を起こし、通州在留の邦人(朝鮮人を含む)、日本守備隊、特務機関、満州国特派員公署が襲撃され、警察署全署員と在留邦人約180名が犠牲になった。